

動物クローニングに関するFAQ【仮訳】

動物クローニングとは何か？

クローニングとは、繁殖の一種である。もっとも一般的に使用される技術は、体細胞核移植（SCNT）である。未受精卵の核を動物の体細胞の核と置き換えることで胚を作成し、動物の遺伝的な複製を産出する。胚は代理母獣に移植され、誕生まで子宮内で成長する。

この問題におけるEFSAの役割とは？

クローニング技術が発達するに従い、クローン動物及びその後代に由来する食品が商業的に現実味を帯びてきている。それゆえ、欧州委員会（EC）は、動物クローニングの食品安全、動物の健康及び福祉や環境への影響に関して、EFSAの専門家の科学的意見を要請した。EFSAは、クローン動物やクローン動物及びその後代に由来する製品に関する欧州連合（EU）における将来的な措置の意思決定者であるECや他の欧州のリスク管理者に科学的助言を提供する。

他にはどのような機関が関与しているか？

ECは、欧州科学・新技術倫理グループ（EGE）にも専門的意見を要請した。EFSAは科学的な任務を超える道徳、倫理、その他の社会的な問題に関して検討する権限はないため、これは、EFSAの役割を補完するものである。その後、ECは将来的に何らかの行動や措置が必要かどうか検討することになる。現在、他の国もまた、同様な問題を検討中である。例えば、米国では米国食品医薬品庁（FDA）もリスク評価を行った。

現在、クローン動物由来製品は市販されているか？

現在、欧州では、クローニングは商業化されていない。世界の他の地域でクローン動物由来製品が流通していることを示す情報はない。米国では、2001年7月以来、このような製品の販売は自主的なモラトリアムとされている。

動物クローニングに関するEFSAの意見は？

意見書の主要な結論には以下がある：

- 利用可能な研究は限られ、調査されたサンプル数は少なく、また、一般に、本意見書に関連する事項に十分に取り組めるような統一的なアプローチがないため、リスク評価に不確実性が生じた。本意見書では十分なデータが利用可能である豚と牛のみを対象にした。
- クローン動物の有意な割合で、主に牛の若齢期や豚の周産期において、動物の健康及び福祉に悪影響がみられており、しばしば重度で致命的な結果となっていた。
- 体細胞核移植（クローン動物に最もよく用いられる技術）は、健康な牛や豚、健康な後代を産出してきた。それらは、生理的特徴、行動、臨床的な状態などのパラメータにおいて、従来の動物と同様である。
- クローン及びその後代に由来する肉や乳については、食品としての安全性に関して、従来の繁殖方法による動物に由来するものと差異があることは示唆されない。ただし、こ

の結論は、その肉や乳が関連する食品安全の規制・管理の下にある健康な動物に由来したものであるとの前提に基づく。

- 環境への影響は予見されないが、入手可能なデータは限定的である。

次に何が起こるのか？

EFSA の意見書と EGE の意見書が、クローン動物並びにクローン動物及びその後代に由来する製品に関し、EC、加盟国及び欧州議会による EU の将来的な措置の検討に役立つであろう。